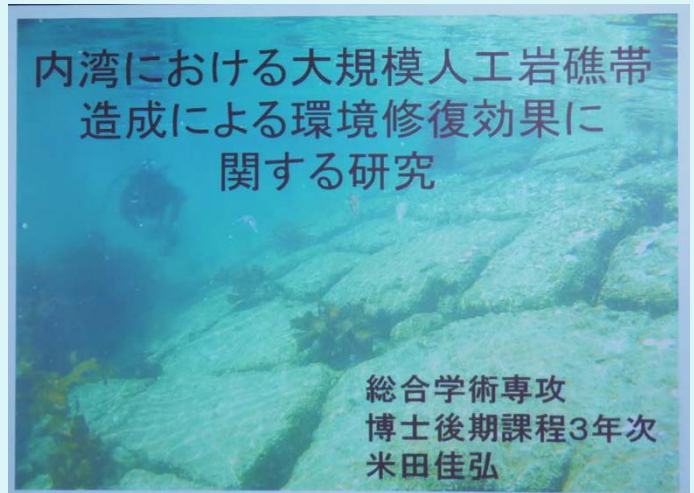


# 博士学位論文公聴会が開催されました



平成25年度博士後期課程の学位論文公聴会が1月31日(金)、T-1002教室で開催されました。今回の発表は米田佳弘さん1名でしたが、落ち着いてリラックスした様子でした。



論文題目は「内湾における大規模人工岩礁帯造成による環境修復効果に関する研究」でした。

浅場や藻場は大規模な埋め立てによって大きく減少しており、積極的な環境修復が望まれています。関西国際空港の造成では生態系機能低下の影響を軽減するために、よく目にする直立護岸ではなく傾斜護岸が採用されました。この結果、日本で最も大規模な人工岩礁帯が出現したのです。





人工岩礁帯のこれまでの環境影響調査がすべて定性的だったものを、米田さんは関西国際空港において、初めて定量的に評価しました。新たな方法により藻類の湿重量を精度よく換算し、藻場現存量の変動と環境要因との関連を明らかにするとともに、藻場の水質浄化機能を評価しました。

さらに、人工岩礁帯に生息する動物群集の食物網構造を把握しました。その結果、藻場現存量を維持するためには、流速や波動流動の確保が重要であり、また傾斜護岸は動物群集の生産に大きく寄与していることが明らかになりました。



米田さんはまとめの中で、傾斜護岸の採用を推奨するとともに、併せて適度な波動流動や流速を確保する形状や位置を検討する必要があるとの認識を示しました。

発表後の討議は予定時間ぎりぎりまで活発に行われました。水質データは藻類だけでなく動物群集も含めて評価した方が説得力が高まるとの意見や、分析方法の妥当性、統計的手法に関する意見や質問がありました。米田さんは、人工島を造成する前の状態には戻らないが、傾斜護岸の効果的な採用によって豊かな藻場形成と動物群集の出現が期待されると締めくくりました。

